

県立古河第一高等学校自己評価表（令和5年度）

目指す 学校像	校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心・健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人材を育成する。 (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、自ら課題を見つけ、自ら解決する力を育む学校 (2) 望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの夢（希望進路）を実現する学校 (3) 基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を養う学校 (4) 特別活動や部活動を通して健やかな心身を育成し、協働を通して人間力の向上を目指す学校 (5) 情報発信の充実により「開かれた学校」を目指すとともに、家庭や地域との連携を通して、地域社会と協働できる学校 (6) 働き方改革を推進する学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学習面においては、ICTの積極的な利活用を推進し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、課題解決能力の育成を目指す、授業を展開している。普通科では週2日の7時間授業を実施し、少人数制授業や課外授業も充実させてより高い学力の養成を図っている。商業に関する学科では、3学科の特色を活かした実践的な授業や課外を展開している。 進路面においては、外部講師による講座等を積極的に取り入れ、3年間を見通した計画的なキャリアガイダンスを行っている。普通科の95.1%、商業に関する学科の78.5%が進学しており、国公立大学の合格者は0名であったが、中央大学、法政大学といった難関大学への合格があった。就職は40名（全体の15.6%）で、5年前の80名台と比較すると大幅な減少傾向にあるが、その資質能力は地元企業などから高く評価されている。 生活面においては、朝の登校指導や生徒指導強化月間の設定をし、確実な実施を通して十分な成果を得ている。今年度は、さらにいじめの防止、交通マナーや危機回避能力を身に付けさせる指導を徹底していきたい。 特別活動等においては、昨年度同様、活動の制限などもあり、生徒・保護者・顧問にとっても不完全燃焼の一年であった。その分、体調管理の大切さや有効な時間の使い方、他者への配慮なども学ぶこともできた。 今年度の課題として、①部活動の加入者を増やす ②学校行事について、社会状況を鑑みて、種目、ルールの変更、伝達方法等、細部を今後も生徒の実態を鑑みながら、内容を検討していく。③生徒活動についてHPや校内掲示版活用の充実を目指す。以上の3点を重点課題とする。④「生徒による授業評価」を効果的に活用し、授業改善の推進を図る。 ICTの積極的な活用を推進することにより、全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと生徒が主体となる協働的な学びを実現する。また、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、社会形成に参画するための必要な資質・能力を育み、地域社会を支える人材の育成を目指す。 開かれた学校を目指し、ICTを活用して、効果的に保護者や地域社会に対して適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動を通して情報収集に努め、さらなる魅力ある学校づくりを進めたい。		1 授業改善の推進 観点別学習状況の評価やICTの効果的な利用による指導の改善を行うとともに、課題解決型の学習場面を設定し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	① 年間指導計画（シラバス）により、指導計画を明確にして、生徒に身につけさせたい力の確実な定着を図る。 ② 観点別学習状況の評価により、生徒が自らの学習を振り返って改善できるようにするとともに、教員が到達状況を適切に振り返ることにより指導の改善を図る。 ③ 普通科、商業に関する学科各科の特性を活かして、発展的な学習内容を充実させるとともに、進路実現に必要な上級資格取得を目指す。 ④ 各教科及び総合的な探究の時間・課題研究において、課題解決型の学習や体験的な学びの機会を充実させるとともに教科横断的な学びの機会を工夫する。 ⑤ 生徒の学習習慣を確立させるための具体的な方策を講じる。 ⑥ ICT機器（タブレット、電子黒板等）の利用方法について習熟し、授業での効果的な利活用を目指す。 ⑦ 授業満足度(KPI)：「生徒による授業評価」の最終評価において、中間評価に比べて「授業満足度」の平均値が上昇すること、「3.0」以上となることを目指す。	A
		2 進路指導の充実 学年に応じたキャリア意識の醸成を目指し、進学・就職指導の充実を図る。	⑧ 多様な進路希望に対応できる進学指導、就職指導、課外学習の充実を図る。 ⑨ LHRや集会、文書配付等をとおして、生徒・保護者への進路情報提供に努める。 ⑩ 個別面談等のキャリアガイダンスの機会を充実させ、生徒のニーズに応じた助言に努める。 ⑪ キャリア教育計画に基づき、学年及び進路指導部による進路行事を充実させる。 ⑫ 個別のポートフォリオについて校内の共通理解を図り、運用する。	B
		3 生徒指導の充実 きめ細かな生活指導を展開し、自己肯定感や生命の尊重、規範意識の高揚を図る。	⑬ 規律ある基本的な生活習慣の定着、問題行動の未然防止・早期発見に努める。 ⑭ 挨拶の励行を基本に、場にふさわしいコミュニケーション力や自己決定能力を育成する。 ⑮ スクールカウンセラー等と連携し、生徒の健全な心身の発達を支援する。 ⑯ 安全に対する啓発指導の機会を充実させ、特に、防犯や交通、インターネット利用等における危機回避能力を育成する。	B
		4 特別活動等の充実 特別活動や部活動等を通して心身を鍛え、生徒が自ら考えて行動する活動をとおして、心豊かな人材を育成する。	⑰ 学校生活全体を通して、集団の一員としての責任を自覚させ、適切な判断、自主的な行動を促す ⑱ ホームルーム活動や学校行事等を通して、自己有用感や達成感を味わわせ、学校生活に対する意欲を引き出す。 ⑲ 部活動や対外ボランティア活動への積極的な参加を促し、異年齢、異世代集団における体験や社会貢献等を通して、心身の成長や人間力向上につなげる。 ⑳ 部活動において、科学的な手法も取り入れながら技術の向上に努め、活性化を図る。 ㉑ キャリアパスポートの運用方法について、校内の共通理解を図り、生徒の主体的な活動や振り返り、改善に資する。	A
		5 「開かれた学校」の推進 生徒の活動や成果を外部に積極的に発信するとともに、地域社会と連携して地域貢献を図る。	⑳ ホームページや学校パンフレット、緊急情報メール等を活用して活動状況を密に発信する。 ㉑ 学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。 ㉒ 学校評議員・PTA・同窓会との連携を密にし、学校教育の改善・充実に努める。 ㉓ ボランティア活動や地域の行事等に積極的に参加し、交流を深めるとともに、教科や特別活動における地域社会や企業との連携・協力を推進する。 ㉔ 一人ひとりの教員が各自の教育活動の中で、地域や社会と生徒をつなげる実践の工夫を行う。（例：商品開発、コンクールへの応募、出前授業、企業による授業 等）	A
		6 「働き方改革」の推進 組織としての具体的な目標や工夫を職員間で共有するとともに、職員一人ひとりの意識を高め、働き方の改善を図る。	㉕ 最終退勤時間を19時とし、時間外勤務を1箇月につき45時間、1年につき360時間以内とする。 ㉖ 各校務分掌内で活動内容の見直しを行うとともに、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫をする。 ㉗ 校内サーバーや教育情報ネットワークの利活用により、情報共有の効率化を図る。 ㉘ 衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。 ㉙ 各自が定時退庁日を設定して勤務時間の適正化に努める。	B

三つの目標		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	確かな学力と豊かな心、健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財	B	B	・主体的に課題を見つけて解決しようとする態度や、計画的に自主学習に取り組む姿勢を育てたい。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程	B		・教育活動を通して、生徒に身身に身につけさせたい資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を実現させたい。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、普通科・商業に関する学科それぞれの特色に応じた学習内容を深め、将来の目標に向かって努力する生徒。文武両道を目指し、特別活動等に積極的に取り組む生徒	B		・入学者が学校生活を通して、自己実現に取り組む見通しをもつことのできるように、2つの学科の特色を明確にしていきたい。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科指導		I C T機器の利用方法の習熟や学習指導法の改善に向けた研修を2回以上開催する。①⑥	C	B	・アプリの活用を含めたICT機器の利用方法の研修を設定する。 ・研修等で学んできたICT機器の利用方法を共有する機会をつくりたい。 ・授業公開や授業観察を積極的に行い、教科横断的な参観を進める、授業改善につなげていきたい。	
		生徒が自らの学習を振り返って改善できるような家庭学習を効果的に提示する。②⑤	B			
		教員相互の授業公開を効果的に実施する。④	B			
	国語	わかりやすい授業展開に努める。	I C Tや文字情報(資料・新聞等)の教材を活用し、生徒の興味関心を引き出す工夫を講じる。①④⑥	B	B	・新しい入試への対応を提示する。 ・生徒の考えや意見を発表する機会を多くする。 ・タブレットの使い方を工夫する。
		基礎学力の向上を図る。	漢字力、古典文法、文学史、作文・小論文指導など分野別に到達目標を定めて指導する。①② 課題を定期的に課し、提出を徹底させ、課題に対する小テストを実施し、基礎学力定着を図る。①③⑤	A		
		進路希望に応じた指導に努める。	学年に応じて課題を精選し、課外授業を充実させる。②③⑤ 生徒一人ひとりの進路希望実現に向けて、興味関心を高めさせ実践力をつけさせる。①②③④⑤	A		
		授業改善の推進を図る。	教員から生徒への一方向的な授業にならないよう授業方法を模索し、教員・生徒による評価を行う。③④⑤⑦	B		
	地理歴史	基礎学力の確実な定着を図る。	授業中の発問への応答や小テスト、定期テスト等から生徒の学習状況を把握し、個々の生徒の実態に応じた適切な指導を実施することによって、基礎学力の定着を図る。①②③	B	B	・ICT機器の利用については、各教員のオリジナリティある活用方法で効果的な活用ができた。今後の課題としては、通史を扱うことの多い歴史科目で、いかに対話的な学びを実現させていくか、情報収集などに努めながら教科内で情報の共有を積極的に行いたい。
		わかりやすく質の高い授業を展開する。	資料・地図・図表の効率的な活用により、わかりやすい授業展開を心掛ける。①③④ I T機器や画像・映像等を活用して、地理歴史科の科目に対する興味・関心を高める。①④ 研究会・協議会への参加や、情報交換・授業公開を積極的に行い、研修に努める。①④	B		
		授業改善の推進を図る。	「I C T機器の利用」「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教員相互の授業参観を定期的に開催し、意見交換を重ね、相互の授業力向上を図る。①②⑥⑦	C		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
公 民	基礎学力の確実な定着を図る。	授業中の発問への応答や小テスト、定期テスト等から生徒の学習状況を把握し、個々の生徒の実態に応じた適切な指導を実施することによって、基礎学力の定着を図る。①②③	B	B		・小テストや課題レポートなど幅広い方法による評価を行い、指導と評価の一体化に努めた。今後の課題としては、実務家による模擬裁判などの外部との連携も図りながら、充実した授業を展開していきたい。
	わかりやすく質の高い授業を展開する。	資料・地図・図表の効率的な活用により、わかりやすい授業展開を心掛ける。①③④ I C T機器や画像・映像等を活用して、公民科の科目に対する興味・関心を高める。①④ 研究会・協議会への参加や、情報交換・授業公開を積極的に行い、研修に努める。①④	B			
	授業改善の推進を図る。	「I C T機器の利用」「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教員相互の授業参観を定期的に開催し、意見交換を重ね、相互の授業力向上を図る。①②⑥⑦	C			
数 学	基礎学力の向上・定着を図る。	基礎学力向上のために、副教材の有効的活用を行い確実に身に付けさせるとともに、また、課題を定期的に提出させ、小テスト等を実施することで学習する習慣を身に付けさせる。①②⑤ 各学年・学科毎に積極的に課外授業を行うことで、さらなる基礎学力の向上を図る。③④ I C T機器（電子黒板、C h r o m Eノート）等を用い、能率よく授業解説を展開する。⑥	B	B		・成績上位層の生徒たちにも対応できる授業を展開していく。 ・成績下位者へのより効果的な指導について研鑽していく。
	生徒の多様化に対応する。	普通科では習熟度別あるいは進路別少人数授業を行うと共に、I C T機器（電子黒板、C h r o m Eノート）等を用い、個々に応じたきめ細やかな授業を展開する。②④⑥ 授業では、単に解き方の伝達のみにならないように留意し、基礎から応用まで、数学的に考えることのよさや数学の楽しさが伝わるように行う。①④	A			
	生徒の意欲を引き出すように授業を工夫する。	I C T機器（電子黒板、C h r o m Eノート）等を用い、生徒相互に学習活動をアクティブに行い、自ら意欲的に学びができるようにする。①⑥ 各研修会等に積極的に参加し、自己研鑽に努め、教員間の情報共有を密にし、授業に生かす。④	B			
	授業改善の推進を図る。	教員相互の授業公開を積極的に実施し、I C T機器の活用や学習活動の工夫等について情報共有を密にし、授業改善に生かす。②④⑥ 生徒による授業評価を受け、生徒のニーズに応じた授業展開を行う。⑦	A			
理 科	基礎学力の向上を図る。	学力の向上を図るために小テストや課題を計画的、かつI C Tを活用して効果的に実施する。①②③	B	B		・I C Tの活用をさらに進める。 ・実験、実習をしやすい環境整備。 ・教科内での授業相互参観の仕組みづくり。
	生徒の学びの保障を確実にする。	学習の理解度に応じて適宜、補習等を行う。授業を欠席した生徒も取り残されないよう、授業内容を確認できるような課題や指導を実施する。①②⑤	B			
	生徒の主体的な学びを活性化できる授業を展開する。	実験・実習やグループ学習など学習内容に応じた言語活動を授業に取り入れたり、I C T機器を活用した授業実践を試みることで、生徒が目的意識を持って取り組める授業を展開するように努める。②④⑤⑥	B			
	授業改善の推進を図る。	I C T機器の利用方法の習熟や学習指導法の改善に向けた研修や相互授業参観を開催する。⑦	C			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	保健体育	基礎体力の向上を図る。	体づくり運動、補強運動を毎時間行い、体力テストにおいて、全国平均を上回ることを目指す。①	A	A	・来年度は体育館が12月まで使用不可となるので、雨天時などの対応や授業展開をより綿密に協議し、より良い授業へと展開する。
		公正、協力、責任等の態度を育てる。	団体種目を通して、仲間と協力し自ら試合を運営できる態度を育てる。④	A		
		克服心を育てる。	克服型スポーツを通して、達成感を味あわせる。ロードレース大会を充実させる。①	A		
		規則正しい生活習慣を身につけさせる。	各ライフステージにおける危険因子を理解し、生涯にわたって健康を保持増進するための意思決定や行動選択ができるようにする。⑫	A		
		授業改善の推進を図る。	体育授業におけるICT機器の利用方法の習熟や学習指導法の改善に向けた研修や保健の相互授業参観を開催する。⑦	C		
	芸 術	基本的学習習慣の育成に努める。	授業計画に基づき、学習環境を整備しながら、生徒の基本的な学習態度の育成を図る。①②⑤	A	A	・年度によって生徒の実情が変化しているため、生徒の実態にあわせた、授業計画、教材研究を行う。 ・教材研究や鑑賞教育のさらなる改善を行い、芸術教科として情操教育の充実に努める。
		情操教育の充実に努める。	生徒の感性や情操を育てる教材や学習活動を工夫して、表現活動を通して情操教育の充実に努める。①②④⑤⑥	A		
		鑑賞教育の充実に努める。	生徒の作品発表の機会を多く設けて、芸術鑑賞教育の充実に努める。④⑥	A		
		授業改善の推進を図る。	芸術科で互いの授業について情報交換を行いながら、それぞれの科目で改善改善を図る。①②④⑤⑥⑦	B		
	外国語	基礎学力の向上と定着を図る。	単語・文法等の小テストや単元テストを実施し、基礎学力の定着を図るとともに、生徒の理解度を把握し、適切な指導をする。①②⑤ タブレットや電子黒板を活用し、生徒の学習活動を活性化させるとともに自主的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。④⑥ 少人数授業を行い（2年論理・表現Ⅱ、3年英語表現Ⅱ、3年文系英語会話）きめ細やかな指導、評価を行う。②③	A	A	・教員間でお互いの授業を積極的に参観し、指導で定着させる英語の技能を実践的なものにしていく。
		キャリア教育を推進する。	土曜課外・平常課外を通して、模擬試験や大学入試に対応できる英語力を習得させる。③⑤ 全商英検・STEP英検を実施し、資格取得への取り組みを支援する。その際、必要に応じて全体指導・個別指導を行う。③	A		
		生徒の関心と意欲を高め、わかりやすい教科指導に努める。	相互の授業公開を実施し、また各種研修会へ積極的に参加して指導法・評価法などの情報を共有する。②④ 模擬試験やGTECを活用して学習への関心・意欲を高める指導をする。③	A		
		授業改善の推進を図る。	ICT機器の効果的な利用方法を教員間で共有し、授業改善を目標とした相互授業参観を実施する。⑦	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
	家 庭	基礎知識の定着と生活技術の向上	多様な教材の活用と発問の工夫により、授業への興味・関心を持たせる。講義内容に関する実験・実習を実施し、知識と技術の統合化を図り、深い理解に繋げる。タブレットや電子黒板を活用し、生徒の学習活動を活性化させるとともに自主的に学習に取り組む態度を身に付けさせる①⑤⑥	B	B	・1年間の見通しをもって授業を効率よく実施していきたい。また、ICT機器を活用した振り返りやポートフォリオを充実させ自主的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。さらに、実習や演習の充実化に取り組むために、授業計画や展開を見直し時間の確保に努めたい。
		課題解決能力の向上	授業で得た技術や経験を生活に生かせるようワークシートや発問を工夫する。物事を「自分事」としてとらえ、PDCAサイクルを活用し、家庭生活の改善・向上と自立に努める心を育てる。①②③④⑤⑥	B		
		生徒の主体的な学びを活性化できる授業を展開する。	実験・実習や学習内容に応じた言語活動を授業に取り入れたり、ICT機器を活用した授業実践を試みることで、生徒が目的意識を持って取り組める授業を展開するように努める。②③④⑥	B		
		授業改善の推進を図る。	一方向的な授業にならないよう授業方法を模索し、教員・生徒による評価を行う。③④⑤⑦	B		
	情 報	基礎的な知識の習得と技術の向上を図るとともに、情報を扱う上での態度と教養を身に付けさせる。	情報モラルに関する基礎的、基本的な知識を身に付けさせるとともに、パソコンを活用する上でのマナーを学ばせる。コンピュータの活用方法についての知識を身に付けさせる。①③⑥	A	B	・今年度より県から提供された「Life is tech!」の導入により、いつでもタブレットにより学習することが可能となった。3年生も継続使用となるとお金がかかることが今後の課題となる。 ・教科書の内容が増えたことにより、各ソフトの操作技術の指導機会が減少した。年度末に行う予定であるが、現時点では技術指導が少ない。今後はどのように組み込んでいくか考える必要がある。 ・授業参観は行えていないが、担当者間の意見交換が活発に行えた。この形を維持しながら授業参観を増やしていく。
		問題解決能力の向上と情報を活用する上での態度と素養を育てる。	ソフトウェアを通じて各ソフトに対する操作技術を習得させ、操作の定着と問題解決の技術を習得させる。①②④⑤	B		
		授業改善の推進を図る。	教員相互の授業参観を定期的に行い、意見交換を重ね、相互の授業力向上を図る。①②⑥⑦	B		
	商 業	各学科の特色を生かした授業・キャリア教育の実践を推進する。 各学科においてスペシャリストの育成を推進する。	3学科それぞれの特色を生かした授業内容の充実を図る。①④	A	B	・他教科との連携をもっとはかる必要がある。各学科の特色を活かしつつ、総合型選抜や国立大学推薦の体制を整えたい。今後も引き続き英語力の向上や小論文指導等の継続的指導体制を確立する必要がある。 ・全商1級三種目以上取得者や上級資格（日商簿記1級・基本情報技術者試験）の取得を目指し、授業内容の一層の充実を図る。
			選択科目・[課題研究]の授業を通じ、通常授業内でキャリア教育を推進する。⑤	A		
			各種検定試験の資格取得を推進する。③	B		
			上級資格取得にむけた課外を実施する。②⑤	A		
			成績不振者のための課外を実施する。①	B		
		授業改善の推進を図る。	ICT機器の効果的な利用方法を互いに研究し、授業改善を目標とした相互授業参観を実施する。⑦	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教 務	生徒の実態を踏まえた教育課程の編成及び運営に努める。	グランドデザインを踏まえ、観点別学習状況及び効果的なＩＣＴ利用を取り入れた１、２学年は年間指導計画、３学年はシラバスを活用して、生徒の学びの保障の実現を目指す。①②⑦	B	B	・学校全体および教科・学年のグランドデザインを見直し、新学習指導要領による第３学年の年間指導計画も完成した。また、長期欠席者や出席停止者へのオンライン授業を実施し、ＧＩＧＡスクール構想における学びの保障を充実させることができた。 ・働き方改革として、デジタル採点ソフトの活用が増えた。次年度は、さらに学校全体で情報機器活用の研修に取り組み、授業に生かし、教育の幅を広げるとともに、環境整備にも取り組みたい。 ・教員相互の授業公開では授業改善推進チームとの連携を図りながら、教職員同士も「自律」した「学習者」となれるようにしていきたい。
		授業確保に努め、学校行事との調整および円滑な対応を図る。①⑤	A		
	指導内容や指導方法の工夫改善に努めるとともに、教務部内の業務の標準化を目指し、目標実現に向けた取り組みの強化を図る。	少人数授業など、生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導・学習指導を行う。⑤⑥⑦	B	B	
		教務部内の業務内容の標準化を目指し、業務内容記録ワークシートを活用し１年間の業務内容を「見える化」をはかり、業務ごとのタイムテーブルを活用して連携を図る。⑳㉑	B		
		教員相互の授業公開でＩＣＴ活用を取り入れた授業の活性化をはかり、授業におけるＩＣＴの効果的な利活用を研修できる仕組みを整える。⑥㉒㉓	B		
	教育活動の広報に努め、積極的な情報提供を図る。	学校説明会、学校公開、中学校訪問等の方法を考案し、情報提供に努める。㉔㉕㉖㉗	A	B	
		学校パンフレットを通じて、中学生、義務教育学校生およびその保護者を中心に、適切に情報の発信を行う。㉔㉕	B		
		ホームページを活用し、本校理解の推進を図る。㉔	B		
情報管理部	校内ネットワークを適切に管理運用する	関係部署と協力して校務用・教育用それぞれのネットワークに応じた更改を適切に行い、速やかな情報共有ができる環境を構築する。 定期的な点検を通して、安全で安定したネットワークの保守管理を図るとともに、効果的な制度設計を通して利便性の向上に努める。⑥㉔㉕	B	B	・それぞれの項目に関しておおむね達成できている。情報技術の進歩により様々な変化に対応しなければならないので、担当者の継続的な自己研鑽が必要になる。情報の共有化をすることによる利便性とセキュリティのバランスを配慮しつつ、継続的かつ遺漏なき維持管理がが肝要である。 ・「教助」の新教育課程向けの対応は過渡期であるので今後とも環境作りが必要である。 ・ＬＡＮケーブルの接続部のプラグのツメが劣化し不具合が出る時があるので修繕が必要。
	成績システム・生徒個人情報を安全に管理運用する。	教務部や事務部、各学年担当者との連携を密にし、校務支援システム「教助」の年間を通じた円滑な利用をはかる。 生徒個人情報を適切に管理運用し、情報の共有化を進めることで、部署間の連携強化、協力体制の強化を図る。㉑	B		
	学校ホームページ・情報メールを適正に管理運用する。	各部署の学校ホームページ担当者と連携して、校内行事等の情報を随時発信しながら、その内容の充実に努める。 教育活動において必要な情報を速やかに配信していくために、メールサービスの適正かつ円滑な運用をする。㉔	C		
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の育成を図る。	職員の共通理解の下に、生徒の規範意識の向上を図り、良識ある社会人育成を目指して指導に当たる。また、指導に関しては保護者の理解が十分得られるよう努力する。⑬⑭	B	B	・ＳＮＳの利用方法の注意喚起をする。 ・危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ・カウンセリングに関しては、担当教員中心に綿密に悩み相談に応じることができた。来年度も引き続き継続していきたい。 ・いじめ案件を未然に防止していくために、生徒指導部と学年がさらに連携していきたい。
	生命の安全に関する指導を適切に行い、生きる力を育成する。	喫煙・薬物乱用・インターネット・交通安全指導を計画的に組み入れ、生命の安全指導を行う。また、不審者侵入に対する危機管理マニュアルを作成し、生徒に意識付けを行う。⑬⑯	B		
	生徒の心のケアを円滑に実施する。	悩みを抱える生徒に対して、個人面談等を計画的に行う。また、このような生徒に対して、共通理解を図りながらカウンセリング等を適切に行う。⑮	A		
	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの防止に努める。	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。また、いじめの早期発見に努め、年３回の被害調査アンケートを行う。⑬⑯	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	各学校行事を通して生徒間の連帯感や協調する態度を養う。	ホームルームを単位として、球技会や文化祭などへの協力体勢を育成する。また、ホームルームで計画した諸活動が自主的・自発的に行われるよう、相互理解と協力を図る。⑰⑱	B	B	・感染症の状況や体育館工事の影響の中で、予定するクラスマッチや体育祭、文化祭を実施するか検討する。生徒が楽しみにする学校行事だが、感染リスクが高まることにもつながる。教育的な効果と感染予防をどう両立させるか模索し、規模の縮小、内容の変更などで対応したい。・学校行事等では実行委員および各委員会が協力的に活動してくれた。
	委員会活動を通して勤労に対する姿勢を育む。	生徒会活動や委員会活動を通して、集団の中で自分の役割を認識し、奉仕の精神を養う。⑰⑱	B		
	部活動等の積極的な参加及び活性化を図る。	入部した生徒や地域のボランティア活動等で生き生きと活動できる雰囲気作りを図り、生徒相互の人間的触れ合いを通して部の目標に一丸となって取り組む。⑲⑳	B		
	キャリアパスポート（スコラ手帳My-バトンノート）の活用について	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、自己実現につながるものとして活用していく。㉑	B	B	・実行委員がリーダーシップをとって動けるようなさらなる指導の強化が必要。
進路指導	生徒一人ひとりの能力・適性及び個性に応じた進路についての指導を充実させる。	年間計画に沿って、生徒との面談を実施し、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等を把握し適切な助言指導を行う。⑧⑨⑩ 授業を中心とした進学指導体制を構築する。①	B	B	・推薦審査会の内規（欠席日数等）の変更を検討する。
	生徒一人ひとりの夢を育み、夢の実現に向け、1学年から望ましい職業観・勤労観の育成を図る。	1年次から計画的なキャリア教育を実施し、望ましい職業観や勤労観の育成を図る。⑧⑨⑩ 職業観・勤労観の育成のため、インターンシップ・進路見学会等を実施する。⑧⑪ 社会人講師等による講演会を実施し、働くことの大切さ、社会人としての責任について理解を深める。⑧⑩	A		
	就職希望者に対して、個々の希望に添った求人情報を提供するとともに、主体的な就職活動を促す。	企業に対して、特色ある本校の教育活動を紹介するとともに、個々の生徒の希望に沿った進路情報の提供に努める。⑧⑪ 就職（進路）未定者に対しては職安等と連携しながらキャリアカウンセリングを実施し、生徒の主体的な取り組みを促す。⑧⑩	B		
保健	一連の検診を円滑に遂行する	体位体力測定や各種検診等一連の諸検査を、学年・体育科及び保健関係機関等の協力を得て、計画的に実施する。⑬	B	B	・感染対策をしながら円滑に健康診断を行う。（全員受診） ・緊急時対応のための各種講習会を実施する。 ・「生命（いのち）の安全教育」を踏まえて性教育講話などを実施する。 ・緊急時対応に備えて、備品の整理、AEDの点検等を定期的実施する。
	心の教育、性教育等を推進する	各種機関の協力を得て、生徒の健康増進を進めると共に、心の教育を充実させる。また、総合的な探究の時間と連携を取りながら、性教育講習会等を実施する。⑮⑱	B		
	適切な環境の維持向上を図る	感染症予防・対策の充実を図る。⑬ 教育活動に適する環境の維持、向上を図る。 保健委員会の活動の活性化を図ると共に、日頃の清掃活動の充実を図る。⑰ 関係機関と連携し避難訓練を実施することにより、防災意識の向上を図る。⑰	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
図 書	生徒・職員の利用促進を図る。	読書習慣促進のための広報活動に努めるとともに、授業・HR等での利用促進を図る。①③⑤	B	B	・コロナも大分落ち着き、少しずつ従来のような時間が増えていくなか、また入試や就職の状況が変化しているので、図書館が果たす役割をじっくり考え話し合っていく必要がある。安心安全で利用しやすい図書館を目指して、どのような働きかけができるか検討していく。
	図書館の整備充実を図る。	書架点検・蔵書整理・廃棄等を定期的実施するとともに、請求記号を改善し、生徒や職員が利用しやすい配架を目指す。④ 図書館の美化と見やすいサインの工夫、図書委員会活動を活性化させ、「足を運びたい図書館」を目指す。⑩ 表現教育・小論文対策の図書・資料の充実を図り、生徒の進路実現に資する。⑧⑨ 返却期限を過ぎた本の返却を促し、紛失・破損の可能性を予防する。⑬	B		
	視聴覚室の整備充実を図る。	視聴覚教室・機器の整備、視聴覚教材の充実を図り、利用を促進する。⑥	C		
渉 外	P T A行事の円滑な運営に努める。	保護者に負担がかからないP T A行事の運営に努めるとともに、P T A役員間並びに各支部間の交流の円滑化を促進する。また、P T A活動の今後のあり方について協議するとともに、円滑な役員選出に努める。⑭	B	B	・全国高P連茨城大会への円滑な協力の促進、体育館工事によるPTA行事の工夫や駐車場への対応など。
	P T A活動への理解が得られるよう努める。	学校HPや文書を通じて、本校P T Aの行事や活動への理解と協力が得られるようにする。⑭⑮	B		
探究活動推進室	全職員の主体なI C Tスキルの向上	全教員がI C Tを活用していけるように、授業等で活用できそうなI C Tの情報を発信していく。⑥ ミライタッチを設置している教室での利用向上と設備の充実を図る。⑥	A	A	・ミライタッチ設置3年目、教員の利用向上が進み、授業においては欠くことのできない機器となった。活用方法も多岐に渡ってきている。 ・総合的な探究の時間、「課題研究」は、創意工夫し向上を図りたい。高大連携、小中学校との連携については可能な限り継続していく。 ・IBARAKIドリーム・パス事業は最終選考に2年連続で残り、次年度に期待したい。
	探究活動及びチャレンジプロジェクトの生徒への教育向上	総合的な探究の時間の基礎(1学年)、総合的な探究の時間の充実(2学年)、総合的な探究の時間の完成(3学年普通科)、商業に関する学科「課題研究」(3学年商業に関する学科)、高大連携の5部門において生徒への積極的な教育活動への参加を図る。①③④	B	B	
	IBARAKIドリーム・パス事業にかかわる企画と実施	一昨年から実施している地元企業との商品開発を継続するとともに、IBARAKIドリーム・パス事業の活動を募集し、企画と実施を目指す。④	A	A	
流通ビジネス科	商業に関する幅広い知識・技能の習得	各種検定資格取得に向けた授業の充実を図る。上級資格取得・成績不振者等の課外を実施する。①③⑤	B	B	・各学年とも検定資格取得に向けて授業を充実させることができた。次年度についても高い目的意識を持たせ、継続的に指導体制を確立していきたい。
会計ビジネス科	基礎学力の向上	小テストを実施し、生徒の学習の進捗度・到達度を把握する。理解不十分な生徒に対しては放課後や長期休業中を利用した補習授業を行う。①	A	B	・近年の経済状況の著しい変化に対応するべく、会計知識は必須のものとなっており、法的根拠に基づいた知識理解が必要となっている。よって、基礎基本の絶対的な理解が必要であり、1年次での基礎学力向上が課題となる。 ・上級資格においては計画的な講習会を行ってきた。日商簿記検定の難易度が高くなっているため、今後、継続して行いたい。
	資格取得の推進	日商簿記検定2級等の上級資格試験の受験者数を増加させる。③ 全商簿記実務検定1級40名、日商簿記2級20名以上合格を目指す。③⑤ 専門学校を利用した各種のセミナーや講習会に積極的に参加する。⑤	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
情報ビジネス科	基礎学力の向上	授業時の到達目標を明確にする。④ 小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。① 長期休業中・放課後等に課外を実施し、理解が不十分な生徒へ補習を実施する。①	B	B	・入学当初から基礎基本の定着を計画的に進めていくことが大切である。 ・新検定への指導法の確立が必要となっている。 ・他種目の全商検定資格取得が可能のため、検定を利用した進路選択を生徒へ周知させる工夫、課題研究などでのプログラム作成をするための環境構築が必要である。
	資格取得の推進	全商情報処理検定試験取得に努める。1級100名、2級160名を目指す。③⑤ 国家試験の指導体制を整え、受験者を支援する。②⑤ ITパスポート20名の合格を目指す。③⑤ 基本情報技術者試験の受験・合格を目指す。⑤	A		
第 1 学 年	基本的生活習慣、道德感の確立	学校のルールに従い、けじめ正しく、誠実さをもって正常な学校生活を送らせる。また、学校生活を通じて、道德感を身に付けさせる。⑬⑭	B	B	・中だるみをはね返け、主体的に学習や部活動、学校行事に取り組む態度を養わせたい。
	学習習慣の確立	日々の授業を大切に、授業の始業と同時に気持ちを切り替え、授業に集中させる。また家庭学習の習慣を確立させ、予習→授業→復習のサイクルを身に付けさせる。商業に関する学科は英数国の知識を身に付けさせた上で、商業に関する資格取得を目指すさせる。普通科は英数国の基礎を徹底し、大学受験の根幹となる基礎的能力を身に付けさせる。①③⑤⑦	B		
	学校生活の充実	高校生活をより充実したものとするために、学校行事や部活動に積極的に参加させる。⑰⑱⑲	B		
第 2 学 年	基本的生活習慣	基本的な生活習慣を定着・確立させる。容易に遅刻・欠席・早退をさせない指導を展開し、安心して学校生活を送れるよう努める。場に応じたコミュニケーション能力や問題解決能力を育成する。⑬⑭⑯	B	B	・卒業学年として、生徒の第一希望を実現できるように、個々に応じた進路指導をしていく。 ・家庭での学習時間の確保しつつ、朝学も徹底していく ・適切な音量での会話
	学習習慣の確立	日々の授業を大切に、始業と同時に授業に集中させる。予習→授業→復習の学習習慣サイクルを身につけさせ、基礎学力の向上・定着を図る。多様な進路希望に対応できるような学力を身につけさせる。流通・会計・情報科は、基礎学力を向上させたうえで、より多くの商業に関する資格取得を目指すさせる。普通科は、英数国の基礎の土台を固め、大学受験の根幹となる学力を定着させる。地歴公民科や理科・情報についても同様に指導する。②③⑤	B		
	学校生活の充実	高校生活をより充実したものとするために、安全面に配慮しながら修学旅行や体育祭などの学校行事、部活動、ボランティア活動などへの積極的な参加を促す。⑯⑰⑱⑲	B		
第 3 学 年	基本的生活習慣、道德感の確立	卒業学年であり上級学校または社会人として送り出せるよう学校の規律を守り、周囲に気を配り誠実さをもって学校生活を送らせる。また、学校生活を通じて道德感を身に付けさせる。⑬⑭	B	B	・おおむねけじめをつけた学校生活を送ることができたと考えられる。 ・最上級生として、学校行事に主体的に取り組むことができた。 ・学年、進路指導部で連携を取り、大きな問題もなく生徒の進路指導を行うことができた。
	学習習慣の確立	日々の授業を大切に、授業の始業と同時に気持ちを切り替え授業に集中させる。また、家庭学習の習慣を確立させ、予習→授業→復習のサイクルを身に付けさせる。商業に関する学科は、英数国の知識を身に付けさせた上で、商業に関する資格取得を目指すさせる。普通科は、英数国の基礎を徹底と地歴公民や理科についても、大学受験に向けて必要な学力を身に付けさせる。①③⑤⑥	B		
	学校生活の充実	高校生活をより充実したものとするために、学校行事や部活動に積極的に参加させる。⑱⑲⑳	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
開かれた学校	情報の発信	ホームページや学校パンフレット、緊急情報メール等を活用して活動状況を密に発信する。②	B	B	・対面形式での学校説明会や学校公開、中学校訪問などの広報活動が可能となったことで、保護者・地域の方との連携に駒を進められたと思う。
	広報活動の推進	学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。WEB上での学校説明内容を充実させる。③	B		
	学校関係者との連携	学校評議員・PTA・同窓会との連携を密にし、意見聴取等により教育内容の改善・充実につなげる。④	B		
	地域との連携、協働を	ボランティア活動や地域の行事等に積極的に参加し、交流を深めるとともに、教科や特別活動における地域社会や企業との連携・協力を推進する。⑤	B		
働き方改革	勤務時間の適正化	最終退勤時間を19時とし、時間外勤務を1箇月につき45時間、1年につき360時間以内とする。必要に応じて管理職が面談を行い、業務内容の見直しや調整を行う。⑦⑧	B	B	・突発の生徒対応や学校行事の準備などで、最終退勤時間を超過する教員もいる。学校行事の精選、業務の効率化、構成員間の業務時間の平準化を図り、時間外労働の削減に取り掛かりたい。
	業務の見直しと業務時間の平準化	各校務分掌内で、業務のスクラップ&ビルドを行うとともに、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫をする。⑧	B		
	情報共有の効率化	朝会打ち合わせや職員会議資料を校内サーバーによって配信する。周知を必要とする情報や文書を教育情報ネットワークのメール配信等で行う。⑨	B		
	職員の意識高揚と実践の具体化	衛生委員会で働き方についての工夫や改善方法について提案し、実践につなげる。⑩	B		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない